

出席停止となる感染症について

集団生活の間では、感染症が流行しやすいことから学校での健康管理のために下記の病気にかかったら、以下の流れで出席停止となります。

①学校へ連絡し、家庭で安静にする。②登校申出書を本校 HP からダウンロードする、または学校から郵送する。③登校時に登校申出書を学校に提出する。

第1種：治癒するまで出席停止とする。

エボラ出血熱、クリミヤ・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、鳥インフルエンザ

第2種：登校基準に従い、出席停止とする。

病名	症状	予防法	登校基準
インフルエンザ	悪寒、頭痛、発熱（38～40℃）全身倦怠、筋肉痛、腰痛。	予防接種。手洗い、うがい。加湿。マスクの着用。	発症後5日かつ解熱した後2日を経過するまで。
百日咳	初期からしつこい咳が特徴。発熱はあまりない。	定期予防接種。	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
麻疹（はしか）	発熱、咳、鼻水、めやに。頬の内側に白いコプリック斑ができる。発熱後皮膚に発疹。	定期予防接種。患者の隔離。	解熱した後3日を経過するまで。
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	37～38℃の発熱。片側→両側のあごの後ろが腫れ、痛む。	患者の隔離。唾液の付着に気をつける。	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで。
風疹（三日はしか）	発熱、発疹、咳、結膜の充血。	定期予防接種。	発疹が消失するまで。
水痘（みずぼうそう）	水泡のある発疹が体中に次々とでる。	患者の隔離。	すべての発疹が、かさぶたになるまで。
咽頭結膜熱	高熱、のどの痛み、結膜の充血。	手洗い、うがい。	主要症状が消失した後2日を経過するまで。
結核	初期は自覚症状なし。X腺で発見される事が多い。	十分な栄養と休養。X腺による早期発見。	病状により学校医その他医師において感染のおそれがないと認めるまで。
髄膜炎菌性髄膜炎	高熱、皮膚・粘膜からの出血、関節炎。髄膜炎に進展すると頭痛、吐き気、首が硬くなる硬直、精神状態の変化。	ワクチン接種（任意接種）、予防内服	
新型コロナウイルス感染症（抗原検査キット陽性の場合も可）	発熱、咳、喉の痛み、鼻水等の呼吸器症状、倦怠感、頭痛、味覚・嗅覚の異常。	予防接種。手洗い、うがい。換気。マスクの着用。	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで。

第3種：学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで出席停止とする。

コレラ、腸チフス、パラチフス、細菌性赤痢、流行性角結膜炎、腸管出血性大腸菌感染症、急性出血性結膜炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、手足口病、マイコプラズマ感染症、伝染性紅斑（りんご病）、その他感染症（※）

（※）学校医その他医師より学校出席停止の話があった場合は、必ず学校へ御連絡ください。